

## 平成 30 年度 学校教育目標の具現化

### 1、確かな学力の確立

- ① 教えるプロとして創意工夫した「わかる授業」を行い、学習意欲を喚起させ、各教科の基礎的・基本的事項を確実に定着させる。
- ② 兵庫型教科担任制を充実させることにより、組織的な指導体制の確立と個性を引き出すきめ細かな指導に取り組む。
- ③ ことば科・英語学習を進めることにより、児童の表現力の向上と国際理解の深化を図る。
- ④ 児童の個性や学習到達状況を的確に把握する「評価」を行い、良さや可能性を伸ばす「学習指導」につなげる。

### 2、豊かな心の育成

- ① 心の教育（道徳教育・人権教育や生活指導）を積極的に進め、人間関係力を高め、いじめのない学級づくりに努める。
- ② 特別の教科「道徳」で学んだことが実践できるように、学校・家庭・地域が連携し、児童の規範意識を高める。
- ③ 児童理解を深めるため、生活態度・学習態度などの観察を細かく行い、児童の悩みや不安を確実につかみ学校組織と保護者が協力して早期に課題解決を行う。
- ④ けじめある学校生活を身につけさせるため、児童への愛情を持った厳しい指導も行う。

### 3、研究と研修の充実

- ① 教員は自らの課題を設定し「わかる授業」を実践するための研修・研究に努める。
- ② 研究推進部による若手教員の授業力・指導力向上のパワーアップ研修を推進する。

### 4、特別支援教育の充実

- ① 障がいのある児童の視点に立つとともに、親の願いにも寄り添いながら、一人ひとりの能力を最大限に伸ばすよう努める。
- ② 特別支援学級と通常学級との交流により、児童がお互いを正しく理解し、共に助け合い・支え合う態度を育成する。
- ③ コーディネーターを中心とした特別支援教育の研修会を行い、個に応じた適切な指導・支援を組織的に進める。

### 5、家庭・地域の教育力の活用

- ① P T A「学力向上委員会」と連携して、児童の家庭での基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）や読書習慣の定着、基礎体力の向上を図る。
- ② 地域の文化財や自然などの地域資源や豊かな人材を、国際理解教育・人権教育・環境教育、郷土学習等の体験的学習に活用する。
- ③ 「地域の子どもは地域で守り育てる」の次世代育成を踏まえた、地域とのふれ合い活動を積極的に進めて、郷土愛につながる児童の郷土への興味・関心を高める。

### 6、よりよい学習環境の整備

- ① 整理・整頓された教室環境をつくる。
- ② 中庭の自然環境などの整備を行い、心の潤う学校環境づくりを行う。
- ③ トイレや手洗い場などの清潔に努め、衛生面の危機管理を構築する。
- ④ 登下校、校地内での安全対策には、研修会を行い組織的な対応に努める。